

大切な想いを墨に込めて 濃淡と明暗で描く水墨画

「観ているだけで、また昔ながらの茅葺（かやぶき）の里の温かさを味わえる絵にしたかった」と語るのは、第36回県日本画協会展の水墨画の部で、県文化協会賞を受賞した成松貴美子さん。



成松 貴美子さん
Narimatsu Kimiko

〔浅井区〕

なりまつ きみこ / 熊本県日本画協会展・水墨画の部で、昨年は「琉球の館」で奨励賞を受賞し、今年は「茅葺の里」で県文化協会賞を受賞。

旅行先で偶然出会った、京都府美山町の茅葺屋根の重なり的美しさを際立たせた作品「茅葺の里」。水墨画の特徴である墨の濃淡と明暗で、茅葺屋根の懐かしさと連なる民家の奥行きを浮かび上がらせた。

「絵は幼いころから観るのも描くのも好きで、今までに俳画、水彩画や油絵などさまざまな絵画に挑戦した」と振り返る成松さん。「自分にとって絵画は、いろいろな人に出会わせてくれる大切なもの。水墨画との出会いも、講師の先生の作品にほれ込み、自分も描いてみたいと思ったのがきっかけ」と笑顔で語る。水墨画は、墨の1色で線や

ぼかしを使い表現する絵画。初めにデッサンをして下図用の紙に墨で形を取り、その上に清書用の和紙を置いて丹念に筆で描く。「水墨画の白の部分は紙の色なので、墨を入れすぎると取り返しがつかなくなる」ところが難しい。受賞作品では、連なる茅葺屋根の奥行き感を白と黒の濃淡と明暗を意識して使い、上手く仕上げるのができた」と制作時の苦労を語った。

「絵画には必ず意味を持たせて、観る人へのメッセージを込める」と成松さん。「今までに描いたたくさんさんの絵画にも、家族への『ありがとう』の気持ちが入められている。絵画を通して、普段は伝え切れないことを大切な人へ届けることができれば」と絵画と共に過ごす日々を大切に生きる。

「水墨画は、まだまだ勉強中」と話す成松さん。「まだ慣れないけれど、いろいろな絵画を通して学んだ表現力を水墨画にも生かして、大切な人へ気持ちを伝えられるような作品を描いていきたい」と微笑んだ。